

国民の安全・安心を守り、仕事や処遇の改善に

ユニオンは全力で運動を進めます

職場の皆さまのご理解・ご協力を

国土交通省
管理職ユニオン

NO. 197
2013. 1.10

発行
国土交通省管理職
ユニオン

所在地
東京都千代田区霞ヶ
関 2-1-2 中央合同庁
舎 2 号館

TEL 03-3509-1138

Eメール
k-union@alpha.ocn.
ne.jp

ホームページ
http://www7.ocn.
ne.jp/~k-union

職場に動くすべての仲間のみなさま
新年明けましておめでと
うございます。

年末からお正月にかけては比較的穏やかな日々で、ご家族やお友達などとゆっくりにした新年を迎えられたことではないでしょうか。私事で恐縮ですが、今年は年男でもあり還暦でもあることから、お伊勢さんに出かけ、無病息災やら家内安全やらを祈願してきました。ご利益があればいいのですが…。

さて昨年を思い返せば、貧困と格差の拡大の中でも消費税率をアップするための世論操作として「公務員

バッシング」の嵐を意識的に作りだし、「高齢者いじめ」と併せて私たち管理職員にとっては大変厳しい一年となりました。

年末に行われた衆議院総選挙で、三年三ヶ月ぶりの復権を果たした自民・公明の連立政権は、第二次安倍内閣を組閣し、「大胆な金融政策で機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略」を強調し、経済再生に最優先で取り組む方針を掲げ、一〇兆円規模の補正予算を編成するとされています。

先の選挙で示されたことは「雇用と景気を何とかして欲しい」という、広範な国民の皆さまからの切実な声だったはずなのに「予算を付けて事業をすればすぐにでも景気が良くなる」的な、過去に何度も失敗した経験に学ばずにまた進めようとしていることに危惧の念を抱かざるを得ません。私たちの職場を見ても分かるように、用地ストックやら発注体制やら建設業界の受け入れ体制やら本当に大丈夫なのでしょうか。

今年七月には参議院議員選挙が予定されています。日本の進路を決める東日本大震災からの復興、消費税増税、TPP協定、原発問題、国民の生活をまもる課題など多くの対決軸があります。

国の出先機関移譲問題では、一部の報道では「道州制」の方向での議論がなされているとのことですが、国の責任で国民の安心と安全をまもるといった立場に立てば予断は許されない状況です。

ユニオンはこれらの事に対し全力で運動を進めています。皆さま方のさらなるご理解とご協力を頂くことにより、管理職員の悩みや要求を解決できる力も倍増することとなり、その力を糧に何としても拙速な地方移管論議に歯止めをかけ、組織と処遇も前進させる一年とすることを決意し、二〇一三年の年頭に当たってのごあいさつとさせていただきます。

国土交通省管理職ユニオン
中央執行委員長 岡村昌美



ネパールよりヒマラヤ山脈マチャプチャレ（6993m、人類未踏）を望む（坂内撮影）

進めよう！安全に住み続けられる私たちの国づくり・地域づくり 第一九回全国建設研究交流集会報告



「進めよう！安全に住み続けられる私たちの国づくり・地域づくり」をメインスローガンにした「第一九回全国建設研究・交流集会」は一月一八〜一九日、静岡県熱海市において開催され、全国から述べ六〇〇名が参加し、建設産別にかかわる民間と公務の仲間が学習・交流を行いました。

集会では、宮田実行委員長（建設首都圏共闘議長

・東京土建中央副執行委員長）のあいさつに続いて「現地報告」として国交管ユニオン東北支部の加藤副委員長が「東日本大震災&原発事故と建設労働者」というテーマで、①被災地における復旧・復興作業において建設労働者が大きな役割を發揮したこと。②東北の公共事業が前年の五、八倍と膨大になり建設労働者が不足していること。③原発事故の影響で福島県内での建設労働者が放射線障害と向かい合いながら働いていること。④フクシマが「核書の街」となっているが、その中でも建設労働者が働きながら生きていること。

また、北海道において「地域建設産業の展望を切り拓く」ために奮闘している建設政策研究所・北海道センターの川村理事長（北海道学園大学準教授）から、札幌市における「公契約条例を制定させる取り組み」の報告とともに、「地域建設産業の再生のために「老朽化するインフラの保全」な

ど具体的な提言活動を進めていく必要性についても語られました。

二日目は、集会の特徴である「民間と公務の建設労働者が交流できる」ことを踏まえて、八分野にわたる分科会が開催され、①地域で仕事をつくる、②地域の住民の安全と建設業者の振興をめざす入札・契約制度、③地域で防災力を高め

る、④現段階の「地域主権改革」をどうとらえるか？などのテーマで、民間での取り組みや公務での取り組みを報告し合いながら学習討論を行いました。解散総選挙という情勢の中で開催された集会は、被災地の復興、疲弊した地域の再建に役立つ建設産業の持続的発展と、仕事と生活の危機打開を求めて、八項目の要求を決議として採択し、決意を新たに全国各地で民間と公務が力を合わせて奮闘し合うことを誓い合いました。

東北支部加藤副委員長

研究・交流集会に行きました 来年は全国からもっと多くの参加を！

一月一八・一九日の両日、熱海にて開催された第一九回全国建設研究・交流集会に参加してきました。

昨年は関西（琵琶湖）開催で緊張の中での集会でしたが、今回は参加側ということで、八月の京都豪雨の報告などの任務もありましたが気楽に参加させていただきました。建設業界を取り巻く情勢は上下左右どこから見ても厳しい状態が続

ています。全国的仲間と経験交流を含めた情報交換の場は非常に重要だと改めて認識し、有意義な2日間を過ごさせていただきました。ただ、ユニオンからの通し参加が全国で2名。皆さん来年はこそって参加しましょう。

近畿支部 京都分会竹沢

職場の仲間への攻撃の防波堤、反撃の砦として

職場にいち早く情勢を伝えるため奮闘

新年、明けましておめでと〜いございます。本年も「管理職ユニオン」の運動への協力をお願いいたします。

さて、ここ数年公務員にとって非常に厳しい年が続いていますが、マスコミを巻き込んだ用意周到な政府の姑息な攻撃に対して、その時々々の冷静な情勢分析と素早い運動により、政府の企みを一定押し返しています。

今後管理職員の処遇と権利を守る闘いは、継続して取り組まれますが、その中で、職場の切実な声を吸い上げ、要求実現に向けた確かな運動提起を全国の仲間へ伝えるため、「管理職ユニオンニュース」を定期的に発行しているところです。

特に「管理職アンケート」の結果と分析や「再任用」については、誌面を拡大のうえ特集として発行しました。

また、各支部においても、繁忙な日常業務を精力的にこなす中、精力的に「支部ユニオン」を発行しています。

管理職ユニオンも結成して一五回の新年を迎えました。

公務員労働者唯一の管理職組合として誇りと自信を持って、日常的には心のよりどころ、職場の仲間に対する様々な攻撃には防波堤、反撃の砦として「管理職ユニオン」は奮闘していきます。

そして、労働組合の原点である「職場の仲間」に、いち早く情勢を伝えることが使命である機関誌を、仲間の皆様に引き続き届けられるよう奮闘します。ご愛読のほど、よろしくお願ひいたします。

さまざま「職場の怒りの声」や「要求実現者の声」の投稿は大歓迎です。

今年こそ皆さんにとりまして、少しでも良い年になりますようお祈り申し上げます。

国土交通省管理職ユニオン
「管理職ユニオンニュース」編集委員長

田中 龍也

田中龍也
「ユニオンニュース」
編集長 挨拶

